

令和元年度 事業計画書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1. 運営方針

会員組織は、平成25年4月の公益法人法改正後も、役員の高齢化や担い手不足等から、組織・活動の弱体化の傾向にあり、このままでは、当連合会の組織基盤を揺るがしかねないと思われま

す。また、札幌市から受託の少年リーダー養成研修業務は、厳しい市財政状況等を踏まえ、毎年度、業務委託費が減額で推移するなか、研修参加数の減少に歯止めを掛けることが求められています。

このような状況を踏まえ、平成30年度から、創設50年を迎える令和4年度を念頭に置き、当連合会の事業・運営・財務基盤の再生に向け、総合的な見直しをスタートさせました。

平成30年度は、支部会長会議等での情報共有化、専門部活動の活性化、さらには業務プロジェクトの開催などにより、市の委託業務・補助事業及びキャンプ場の環境改善作業等を実施し、協力連携体制の再構築や事務効率化・経費節減等を進め、一定の効果を上げつつあると考えております。

再生2年目となる令和元年度は、下記のとおり、既存事業の魅力アップを図るとともに、令和2年度に向けて、札幌市の教育委員会及び小・中学校との連携強化を検討しつつ、子どもの健全育成に役割を担う中核的な組織として社会的価値を高めるよう、より積極的に取り組んで参ります。

2. 運営基盤の再生プラン

1) 「体験交流事業」の拡充による子どもの参加促進及び社会的な認知拡大

体験交流事業は、各区支部自主事業のほか、札幌市からの委託業務・補助金事業について、それぞれの特性・制約を踏まえ、より子どもの参加促進と社会的な認知拡大に取り組みます。

① 大学・企業等との連携事業の拡充（市委託業務）

平成30年度から実施している大学・社会教育施設・企業等との協力連携の仕組みを拡大し、「テーマ×遊び×学び」の枠組みで子どもに一步先行く体験事業に取り組みます。

② 子どもを育む事業の拡充（市補助金事業）

本部・10区支部において、子どもが面白さ・楽しさを感じるような創意工夫を図り、自主性や協調性などを育む集団体験活動の拡充及び参加者の増加に取り組みます。

2) 「育成事業」の拡充による公益法人としての役割強化

① ジュニアリーダー研修事業の魅力アップ等(市委託業務)

研修内容の魅力アップや修了基準・履修方法の弾力的運用により、ジュニアリーダー研修生の登録・継続の増加に取り組みます。(事務局職員による研修魅力アッププロジェクトで検討)

② 単位子ども会等への支援拡充

単位子ども会等には、助成・褒賞事業の拡充(地域ふれあい体験事業・子ども会立ち上げ支援事業・無事故褒賞事業)・講習会の開催などにより、組織・活動への支援に取り組みます。

③ 修了生の会への支援拡充

ジュニアリーダー修了生の組織化を図って、当連合会との協力連携関係を強化し、より修了生の活動機会を増やして役割を発揮できるよう、支援の拡充に取り組みます。

※ 当面の目標としては、令和2年度に開催予定の指定都市子ども会ジュニアリーダー札幌大会において、当連合会と企画運営の役割分担ができるように調整を図ります。

3) 北海道胆振東部地震に関する指定都市子ども会からの支援金の有効活用

指定都市子ども会(7団体)の支援金について、防災研修事業に関する特定寄付金として活用することとし、令和元・2年度の2カ年で、子ども向け防災教材の購入、中堅事務局職員による防災士の資格取得、育成者向け講演会・講習会の開催など、業務推進力の強化に取り組みます。

※ 令和2年度は、指定都市ジュニアリーダー札幌大会において防災研修事業を予定。

4) 事務局職員体制及び雇用条件の見直しによる経常収支バランスの確保

継続的な法人運営を確保するため、段階的に担当職員を嘱託職員に切り替え、人件費総額を抑えつつ、一方で事務局職員の意欲・能力・業績等に応じ、給与・手当の処遇改善を図ります。

5) 区事務局事務の共通化・マニュアル化及び区事務局経理の本部移行化

①区事務処理のバラツキ解消、②嘱託職員への業務対応、③経費節減の観点から、段階的に事務処理の共通化・マニュアル化、さらには区事務局経理の本部移行に取り組みます。
(事務局職員による業務マニュアルプロジェクトで検討)

6) 公益法人としての寄付金募集のための仕組みづくり

平成30年度に引き続き、個人・法人からの寄付金募集の仕組みづくりに取り組みます。
(平成30年度:監督官庁に寄付金税控除法人を申請する前提として、諸規定の整備を検討)

3. 公益目的事業別の計画概要

1) 体験交流事業

(1) さっぽろの子どもを育む事業

豊かな感性と協調性を育むため、異なった年齢・地域の子ども体験交流事業を実施します。

① 大志塾事業<本部所管・いきいき部・区支部協力> <札幌市委託業務>

- ☆ 開催期間・回数:令和元年5月18日(土)~9月29日(日) ※ この間に4回開催
- ☆ 開催場所:北海道開拓の村・西岡キャンプ場
- ☆ 参加人数:120名(延べ480名) ※ 全市の小学1~6年生を対象
- ☆ 特別協力:一般財団法人北海道歴史文化財団(北海道開拓の村の施設管理者)

② 札幌市子ども大会<本部所管・いきいき部・区支部協力> <札幌市補助金事業>

- ☆ 開催時期:令和元年10月19日(土)
- ☆ 開催場所:スポーツ交流施設「つどーむ」
- ☆ 参加人数:500名 ※ 全市の小学1~6年生を対象
- ☆ 特別協力:一財)さっぽろ健康スポーツ財団 協賛:東洋水産(株)、北海道ココロラボトリング(株)

③ 野外体験活動推進事業<本部・区支部(10区)で実施> <札幌市補助金事業>

本部・区支部の創意工夫により、宿泊キャンプ等を活用した体験事業を実施します。

④ 子ども会学校等 <札子連支部独自事業>

区支部のネットワークにより、社会教育施設やまつり等を活用した体験事業を実施します。
実施方法は、地域における区支部の関係性に応じ、主催・共催・実行委員会となります。

- ☆ 子ども会学校(中央区・北区・東区・白石区・豊平区・清田区・手稲区⇒区主催)
- ☆ 子ども会学校(南区・西区⇒区支部共催又は実行委員会)
- ☆ 稲刈り体験(中央区)、百人一首かるた大会(白石区)、
- ☆ 子ども体験塾(清田区)、ジャンボリー(南区)
- ☆ 区民まつりへの参画(北区・東区・厚別区・清田区・西区・手稲区)

(2) 子どもまつり開催事業 <札子連支部独自事業>

各区支部の特色を生かし、子どもや地域住民が参加する子どもまつり事業を開催します。
実施方法は、地域における区支部の関係性に応じ、主催・共催・実行委員会となります。

- ☆ 子どもまつり(区支部の主催:北区・厚別区・清田区・手稲区)
- ☆ 子どもまつり(区支部の共催・実行委員会等:中央区・東区・白石区・西区)
- ☆ ノースロード(北区:実行委員会)・遊芽カーニバル(白石区:実行委員会)

(3) 子どもの居場所づくり事業(実施回数:30回程度) <札幌市委託業務>

地域でいきいきと参加・活動できる子どもの居場所を開設し、さまざまな世代がお互いに協力することや相手を思いやる大切さを学ぶ場とするほか、子どもとジュニアリーダー研修生・修了生・育成者等が顔の見える関係を築くきっかけとなる事業を実施します。<区支部所管>

- ☆ 各区支部の特性・特色を生かし、区民センター・小学校・地区会館などで開催

(4) 野外活動推進事業(実施回数:10回程度) <札幌市委託業務>
札幌市青少年キャンプ場等を利用し、野外の集団活動を通じて子どもの健全育成に取り組むこととし、支部主管のキャンプ体験事業を開催します。<区支部所管:全区実施>

(5) 教育機関・企業・団体等との連携事業(実施回数:13回程度) <札幌市委託業務>
子どもの多様な興味関心を喚起するテーマを設け、遊びの要素(面白さ・驚き・感動など)と学び(創造性・協調性・安全性等)を加えた事業を実施します。<本部所管・区支部協力>
この事業の実施には、子どもに一步先行く体験として、また将来に有益な機会となるよう、大学・団体・企業等との協力連携(特別協力)の仕組みを構築します。
☆ 平成30年度:3回(本部・区支部の協力連携事業 ※ 事務局を中心に実施)

(6) キャンプ場管理運営業務(利用回数の増大) <札幌市委託業務>
青少年キャンプ場を管理運営し、リーダー養成研修や子どもの健全育成事業で活用するほか、中学校の炊事遠足、青少年育成団体の利用を促進します。<本部所管・区支部協力>
☆ 青少年キャンプ場:西岡(豊平区)、小野幌(厚別区)、カッコウの森(手稲区)
☆ 利用者数の目標:120団体 6,700名(対前年度の計画数)
※ 平成30年度実績:93団体 5,081名(台風・地震等の影響で減少)

2) 育成事業

(1) ジュニアリーダー養成研修事業 <札幌市委託業務>
「心とワザを磨こう!」をメインテーマに、集団活動に必要な知識及び技術を学び、自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に考え・行動するとともに、集団の中で他人と協調し、思いやりの心を持つ人材の育成を目指します。

令和元年度からは、参加対象年齢を小学5年生から4年生に引き下げて実施することとし、年度当初に小学校を通じ、養成研修生の参加募集を実施します。(小学校4~5年生対象 2万枚の募集チラシを配布) <区支部所管>

① ジュニアリーダー基本研修(養成~中級):50回(1区5回、宿泊2回以上)

(養成:小学4年生・5年生 初級:小学6年生・中学1年生 中級:中学2年生・3年生)

- ☆ 養成研修では、地域における子どもの健やかな成長を育むため、集団活動に必要な基礎的知識や技術を習得させ、思いやりの心や協調性を育むリーダーを養成します。
- ☆ 初級研修では、中級・養成研修生とのコミュニケーションを通じ、集団活動の中心的な役割を担いながら、積極性や協調性を育むリーダーを養成します。
- ☆ 中級研修では、集団活動の知識や技術を習熟させ、地域の子ども会活動等で主体的に考えて行動するなどのリーダーシップを学び、実践的なリーダーを養成します。

② ジュニアリーダー基本研修(上級):6回(宿泊3回以上)

コミュニケーションやグループワークなど、円滑に集団活動する専門的なワザを習得し、創造力や共感力を持って地域やまちづくり活動するリーダーを育成します。<本部所管>

③ テーマ研修(日帰り・宿泊)

防災、救急救命など、日常生活に密接なテーマに沿って知識や技術を学ぶとともに、異なった年齢・地域の子どもが合同で研修し、実際に生活に役立つリーダーを育成します。

☆ 11回(宿泊:本部1回、日帰り:区支部10回 ※ 事務局を中心に実施)

(2) リーダー派遣研修事業 <札子連本部事業>

ジュニアリーダーを各種研修会に派遣し、他都市との情報交換・体験交流によって活動意欲を高めるほか、必要な知識や技術を学び、区支部事業に活かすこととします。

- ☆ 全国子ども会ジュニアリーダー研修集会:令和元年7月13日(土)~15日(月・祝) 東京都で開催
- ☆ 指定都市子ども会ジュニアリーダー大会:令和元年8月2日(金)~5日(月) 川崎市で開催
- ☆ 北海道キャンプの特別協力:令和元年8月9日(金)~12日(月・祝) 国立大雪青少年の家で開催
- ※ 支部事業等に配慮したうえで、希望するジュニアリーダー上級生を派遣。

(3) 育成者研修事業

＜札子連独自事業・札幌市補助金事業＞

各種研修会に育成者を派遣し、子ども会等の諸課題や先進事例を学び、支部事業等に活かすこととします。また、区支部役員・単位子ども会育成者・修了生等を対象に、子どもの健全育成に関する講習会等を開催するほか、各区支部では、実情に沿った研修会を開催します。

- ☆ 第53回 全国子ども会育成中央会議 :令和元年10月 4日(金)～ 6日(日) 倉敷市で開催
 - ☆ 第56回 指定都市子ども会研究協議会:令和元年11月23日(土)～24日(日) 神戸市で開催
 - ☆ 育成者向け研修会(講演会・講習等) :令和元年11月～12月 札幌市内で開催
- ＜本部と育成者支援部との連携事業＞

(4) 職員研修事業

＜札子連独自事業＞

事務処理の共通化等に向けて業務マニュアル(暫定版)を作成し、財務処理(予決算)、市委託業務・補助金事業・安全共済会・キャンプ場事業等に関する実務研修を実施します。また防災研修として、中堅事務局職員に防災士資格を取得させ、事業推進力を高めます。

(5) 子ども会活動活性化事業

＜札子連独自事業・札幌市補助金事業＞

① 地域ふれあい体験事業(支援対象団体の拡大等)

「地域ふれあい体験事業」を単位子ども会のほか、地区子ども会連絡協議会に拡大するほか、区支部の単位子ども会数に踏まえ、助成総額(1団体20千円)を2倍に増やします。

☆ 令和元年度:840千円(計画:42団体) ※平成30年度:400千円(計画:20団体)

② 単位子ども会立ち上げ支援事業＜支援額等の拡充＞

助成額を1団体50千円3年まで継続とし、支援内容を拡充します。

☆ 令和元年度:150千円(3団体) ※平成30年度実績:100千円(1団体20千円:単年度限り)

③ 指導員派遣事業

「この指とまれ！」事業として、指導者等がない地域に修了生及びジュニアリーダー研修生を派遣し、安全な子ども会活動(野外活動・キャンプ・KYT等の指導)を支援します。

④ 修了生の会への支援事業

ジュニアリーダー修了生の組織化を支援するほか、当連合会との共催で宿泊キャンプ事業を実施し、ジュニアリーダーとして継続的な活動の環境づくりに取り組みます。

☆ 宿泊キャンプ事業の時期・場所:令和元年9月21日(土)～22日(日) 西岡キャンプ場

⑤ 子ども会活動表彰事業

札子連として、子ども会及び育成者組織として7年以上、子ども会の育成者として10年以上、活動を継続した団体・個人に対し、表彰状並びに記念品を贈呈して表彰します。

また、全国子ども会連合会は20年以上、指定都市子ども会育成連絡協議会は団体10年以上・個人15年以上活動を継続し、業績が顕著の場合に、選考委員会を経て推薦します。

3) 普及啓発事業

＜共同募金会助成事業・札子連独自事業＞

参加募集や事業案内は、積極的に募集チラシや札子連HP等を活用してPRします。また事業報告等は、「さっぽろっ子」・各支部広報誌・札子連HPで分担して情報発信します。

☆ 札子連ホームページへの訪問者数:延べ 30,000人(2倍増)

※ 平成29年度:延べ4,569人 ※ 平成30年度:延べ14,400人(見込み)

☆ さっぽろっ子(年3回発行:8月・11月・3月) 区支部の広報紙(年1回又は2回発行)

※ 子ども会をPRするリーフレットを作成(平成30年度末)

4) 子ども会安全会事業

＜札子連独自事業＞

子どもや育成者が、安心して子ども会の活動・事業に参加いただくため、安全共済会に加入してもらいほか、必要に応じて共済金等の申請手続きを実施します。

また、札子連として、無事故で活発に活動してきた子ども会への褒賞事業について、今後はその要件を10年間から5年間に短縮するほか、何度でも褒賞が受けられるよう見直します。